



AUE News

2011年9月15日

第 24 号

編集・発行
愛知教育大学広報部会
TEL 0566-26-2738
FAX 0566-26-2500



目 次

- 省エネニュース@愛教大
- 行事予定(9月16-30日)
- トピックス
 - ・ 津西高校が本学見学
 - ・ 天文台一般公開
 - ・ 日本グローバル教育学会全国研究大会
 - ・ 井ヶ谷地区役員との懇談会
 - ・ 第3回ポイ捨て防止アクション
 - ・ 学術講演会で寺脇研氏講演
 - ・ 目からウロコのアート展
- ・ 1980年度卒業生同窓会
- ・ 中島晴美教授の作品展
- お知らせ・報告・投稿
 - ・ 中野弘幸さんユニバーシアード2位&全日本学生選手権優勝!男子初の快挙!
 - ・ 陸上部の日本学生対校選手権成績
 - ・ 小学校に植物工場, 未来の農業技術を体験
 - ・ 指導案作成のためのWord講習会
 - ・ 「教員×教職志望者」交流会
 - ・ 事務職員採用内定者懇談会
 - ・ 催しもの案内

省エネニュース@愛教大

2011年度愛知教育大学緊急節電対策の啓発活動として、「AUE News」で省エネに関するニュースをお知らせします。今回はNo.6。作成は「省エネワーキンググループ」です。節電にご協力ください。

NO 6 太陽光発電で省エネ&Co2削減!



太陽光パネル設置(屋上)
美術・技術・家政棟
演習室棟
図書館
附属小中高, 特別支援学校



太陽光発電表示
発電量を目視できます!

●太陽光発電「省エネ」のポイント

- ①大学・附属学校の年間電力量の約3.5% (208,422kw h/年:2010年)を発電しています!
二酸化炭素の排出を約98 t 削減しました。



行事予定(9月16-30日)

- 16日(金) 附属学校運営委員会 (10:00～ 第三会議室)
安全衛生委員会 (16:40～ 第五会議室)

- 18 日(日) 保護者懇談会 (14:00～ ウィンクあいち)
- 20 日(火) 役員部局長会議 (10:00～ 学長室)
経営協議会 (15:00～ KKR ホテル名古屋)
- 21 日(水) 財務委員会 (15:30～ 第五会議室)
- 27 日(火) 役員会 (13:00～ 学長室)
- 28 日(水) 教職員会議 (13:00～ 第一会議室)
教授会 (13:30～ 第一会議室)
- 30 日(金) 卒業式 (9 月卒業) (10:30～ 第五会議室)

トピックス

津西高校が本学見学(9/2)

三重県立津西高校の 1 年生 75 人が、9 月 2 日(金) 午前、本学を見学に来た。

台風 12 号の影響が心配されたが、午前 10 時ごろ一行はバスで到着し、第二共通棟 411 教室に移動。総務課職員が本学の学生数や取得できる免許、キャンパスライフ、教育実習、施設などの概要を、入試課職員が入試の種類、募集定員、推薦入試についてそれぞれ説明。高校生たちは配布された大学案内と見比べてメモをするなどしていた。



続いて、模擬授業が行われ、この日は、数学教育の佐々木徹郎教授が担当。教育学部、教員採用試験、教員養成の学生像、教員採用の見通しなどについて説明し、「大切なのは“教師になりたい”という強い意志。ピーター・ドラッカーのいう『知識社会』では専門知識が資源になる。教育学部はその知識をデザインする」など語り掛けた。約 1 時間にわたる授業に生徒たちは、「高校とは違って、自分で考える大学の授業の雰囲気がした」と熱心に耳を傾けていた。

昼食は学食を利用。セルフサービス式の食堂で、それぞれが好きなメニューを注文。何度か繰り返してオーダーする食欲旺盛な生徒もいて、自由なキャンパスライフをちょっぴり体験。その後、施設見学が予定されていたが、台風の接近により、予定を 1 時間繰り上げ、午後 1 時にはバスに乗り込んで帰路に着いた。

天文台一般公開(9/3)

本学天文台で「第 66 回一般公開」が 9 月 3 日(土) 午後 6 時から自然科学棟で開催された。この日は、台風 12 号の接近で刈谷市内にも暴風警報が発令されていたものの、天文マニアから子ども連れまで 24 人も参加。悪天候のため屋上天文台での観望会は中止となったが、講座と 3D 上映会は予定どおり実施された。



講座では「なぜ、銀河は渦を巻く？」をテーマに、澤武文教授(理科教育)が、渦巻き銀河について説明。銀河のハッブル分類を紹介した後、実際の銀河の画像を確認。楕円銀河と渦巻き銀河の違いは星の運動の仕方にあることなどをアニメーション映像を示しながら解説した。

「3D 映像上映会」では、国立天文台が開発したソフト「Mitaka」を使った“宇宙の旅”を上映。今回は太陽系を通過し、銀河系の形状や銀河系内での太陽の位置、銀河系の大規模構造や渦巻き銀河の形成シミュレーションなどを楽しみ、和や

かな雰囲気、20分ほどの宇宙旅行を終了した。

次回の一般公開は11月5日(土)の「第5回科学・ものづくりフェスタ@愛教大」に合わせて、午前10時30分～午後8時の予定。詳しくは天文台HPを参照。

<http://tenmon.phyas.aichi-edu.ac.jp/index.html>



日本グローバル教育学会全国研究大会(9/3)

9月3日(土)に本学で「第19回日本グローバル教育学会全国研究大会」が開催されました。当日は台風12号の影響で交通機関も乱れた中でしたが、約60名の方にご参加いただきました。幸いにも大会の開催時刻までに雨も上がり、風は強かったものの無事に開催することができました。



大会のテーマは『変動するグローバル社会と教育—世界と日本における“2011年”—』とし、グローバル化が進む中で起こる様々な問題を教育の中でいかにして取り上げていくかを考えました。午前はグローバル教育に関する自由研究発表が行われ、本学の教員や大学院生からも6件の発表がありました。午後にはシンポジウムを開催し、名古屋大学の服部美奈先生による「イスラム世界から見たグローバル社会と教育」と題した基調講演と、シンポジストによるディスカッションを行いました。最後に、学会顧問で本学名誉教授の魚住忠久先生に総括講演をしていただきました。

グローバル化が進む中で、各国の文化や社会を理解し、お互いを思いやりながら持続可能な国際社会を形成することが求められています。そのためにはお互いの国に関する知識は欠かすことのできないものです。大きく変わりゆく時代の中で、学校教育において新たな社会のニーズに合わせたグローバル教育を推進することが求められています。今後とも本学会へ多くの方が参加され、グローバル教育がさらに発展していくことを願っています。

(社会科教育講座教授 船尾日出志(大会実行委員長))

井ヶ谷地区役員と本学の懇談会(9/7)



本年度の井ヶ谷地区役員との懇談会が9月7日(水)午後6時半から本学の第一福利施設で開催された。会には、野々山利維地区長、加藤賢次市議会議長、黒川智明市議、近藤喜久雄公民館長ら、本学側の松田正久学長、都築繁幸理事、一宮登特別学長補佐はじめ理事、部課長ら、合わせて約40人が出席した。

松田学長が「本学は避難所になっており、地域防災の観点はもちろん、防犯、交通問題などさまざまな課題について地域の方と相談しながら一緒になって調整を進めていきたい。また、本学が存在感ある国立大学であるためには地域から信頼される大学でなければならないと思っています」とあいさつ。野々山地区長は「避難所として、災害時には我々も助けていただきたい。資源ゴミ回収では愛教大の方に協力していただいております。感謝しています。今後も地域の環境問題へのご協力をお願いしたい」と述べた。

続いて一宮特別学長補佐の司会で意見交換を行い、都築理事が本学の最近の出来事を中心に地域関連情報を紹介。地区代表からは大学正門外の土地、交通問題、洲原池に面した本



学自然観察園の利用などについて質問が出された一方、アルバイトを急に休み、経営者を困らせる本学学生のマナーに関する苦言もあった。

この後、懇親会に移り、地区役員と本学関係者が会食をしながら意見交換をするなど和やかな雰囲気の中で歓談し、約1時間半の会を終了した。

第3回ポイ捨て防止アクション(9/8)

本学の安全衛生委員会（委員長・折出健二理事）が呼びかけた「第3回ポイ捨て防止アクション」が9月8日（木）午後零時半から行われ、折出委員長をはじめ教職員10人が参加した。

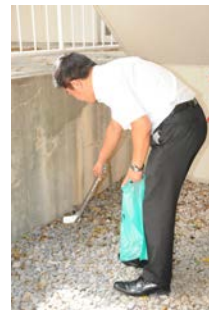
今回は、（1）吸い殻を収集し第1回「ポイ捨て防止アクション」の本数との推移を見ること（2）死角的な場所に吸い殻がないか視認することを目的として行いました。第1回と同じ4エリアで吸い殻を拾い集め、回収された吸い殻は計149本でした。これは第1回（6月9日）実施の846本から大



幅に減っています。また、本数の多い順は第1回と同じ「第一福利施設・情報センター・自然科学棟」で、回収エリア毎の本数に対する比率も第1回とほぼ同様の44.3%でした。

今後も回収活動を実施していく予定ですが、本学は敷地内全面禁煙でありますので、ご協力をお願いします。

（人事課係長 南部博）



学術講演会で寺脇研氏講演(9/9)

文部科学省の元審議官で京都造形芸術大学教授の寺脇研氏を講師に招いた本学の学術講演会が9月9日（金）午後、第五会議室で開催された。寺脇氏は「これからの教育を考える」をテーマに約2時間、熱弁を振るった。

講演会に先立ち、松田正久学長が映画評論家としても活躍する寺脇氏のプロフィールを紹介し、講演に移った。教育改革に携わり、「ゆとり教育」推進のスポークスマンとしても奔走した寺脇氏の教育論を聴こうと、学外者を含む学生、教職員や約70人の参加者の関心は高く、中には熱心にメモをとる学生もいて、教育のあり方を見つめ直す好機になった様子だった。

寺脇氏は冒頭「ゆとり教育を批判する人は1990年代末から同じことをいっているが、学校は未来を見据えてやって行かねばならない。鹿児島で市民との会を持ったら70人が集まり、うち10人は高校生だった。自分の勉強をしたいが、先生は画一的で膨大な宿題を出すと嘆く高校3年生もいた。しっかりした子どもが育っていると感じた。鹿児島では子どものころ、“議を言うな”と言われた。異議を唱えるなという意味だが、真意は議論を尽くして、やると決まったら不安などを口にするなということだ。ゆとり教育も批判はあったが、2002年の本格的実施まで18年を費やして議論は尽くした」と述べた。

寺脇氏はまた、世の中のために役立ちたいという学生のボランティアグループや東日本大震災支援の若者によるNPOの活動を紹介し、「学生に主体性がないとできないこと」とゆとり教育が目指した自立した学生が着実に育っているとの認識を示した。

「生涯学び続けることを前提にある一時期に（学習時間を）詰め込まないのがゆとり教育の考えだが、“国は死ぬまで勉強しろというのか”という声も聞かれた。教育の成果は短時間では出ないが、私は2014年には分かったと答えた。優秀なスーパー高校生が私の身の回



りにも 20, 30 人いるが、今の高校 3 年生が 14 年には自立した学生生活を送っていることを信じている」と変わりつつある学生らに期待した。

さらに、尊敬する教育学者、文部科学省元幹部との対話などに触れ、「いい大学、いい会社、いい人生という価値観があったが、今の“いい”は自分が学びたいことを存分に学べる大学であり、働くことに誇りを持ち、自分が生かされる会社であり、それが引いてはいい人生につながる。教職はこの間ひどいことを言われてきたが、底を打った。これからはよくなる。大阪では先生に自由な裁量権はないとの主張があるが、子どもの学習権を保証する、子どもの学びを硬直化させない、という論理的な反論が必要だと思う」とした。

質疑も行われ、寺脇氏は一人ひとりに丁寧に答え、最後に参加者からは大きな拍手が送られた。

目からウロコのアート展(9/10-19)

本学の美術教育の学生たちによる現代アートの作品展「目からウロコのアート展 2011」が、刈谷駅前商店街のギャラリー「スペースAqua」で、9 月 10 日（土）から始まった。19 日まで。

昨年に続く、第 2 弾。美術教育の加藤マンヤ講師と美術科 2 年生有志 14 人が身近にある生活雑貨などを使った現代アートの 18 作品を展示している。加藤講師の「パーフェクトグッド」はグッドと V サインを同



時に指で表現した、一見ありそうなユニークな作品。堀田千加さんの「時計」は普通の掛け時計かと思うと、針が動くのではなく、文字盤が動くという「立体的錯覚」をテーマにしたもの。石原佳帆さんの「新標識」は街角にある交通標識のようで、よく見ると「歩行者専用」「車両進入」の二つを分解してできたパーツを集めて「親子でゴールしましょう」という新しい標識に。三輪香央里さんの「手離せないおもちゃ箱」は、おもちゃの一つひとつにリールがついていて、おもちゃを手離すと箱に戻るけれど、手を離して遊べないという“機能剥奪”をテーマにしたひとつの癖ある作品。



作品を出品した桑下真由佳さん、中村茉莉紀さんは「メッセージ性やコンセプトを考えて作品にするのに苦労しました。ユニークな作品を楽しんでください」と笑顔で話した。



17 日（土）午後 2～4 時は、加藤講師が世界の注目アート作品を紹介するトークショー「こんなアートありますか」（参加無料）を、18 日（日）午後 2～4 時は小学生を対象にした造形遊びのワークショップ（有料）も開催。問い合わせはTEL0566・23・2488 へ。

1980 年度卒業生同窓会(9/10)

9 月 10 日（土）の 12 時半から 2 時間にわたり、名古屋・キャッスルプラザホテルで、「卒業 30 周年記念愛知教育大学第 15 回卒業生同窓会」が開催された。昭和 56(1981)年 3 月に本学を卒業した同窓生の会で、毎年卒業 30 周年を記念した同窓会がこの時期開催されている。全体の代表を努める加藤宏基先生のあいさつで会が始まり、来賓の愛知教育大学同窓会長柴田録治氏に続いて、学長である私があいさつした。三番目は、愛知県教育委



員会委員長の加古博氏のあいさつでした。来賓はほかに、同窓会副会長の坂野重法氏（愛知県小中学校長会会長）、尾張地区会会長鳥居隆弘、三河地区会会長真木利貢、名古屋地区会会長加藤友昭の各氏であった。

私はあいさつの中で、当時の様子に触れ、卒業の年の3月に大学会館が開館し、この4月から大学でも土曜日が非授業日になり週休二日制がスタートしたこと、その1年後には栴の湖研修所（現在は閉鎖中）、2年後には図書館新館が開館するなど、創立以来本学の整備も急ピッチで進んだ、今から思うと夢のような時代であったこと等に触れました。また卒業生の千人余のうち、約650人が県内正規教員、県外で約50人、約150人が臨時教員、約50人が企業・公務員等に就職していた、そうした時代でした。

懇談会では、30年ぶりにお会いするかつての物理のOBや理科あるいは他教室のOBなど懐かしい方々に出会うことができました。お子さんが本学の学生という方々も出席され、多額の授業料を納入いただいていることにお礼を申し上げ、保護者懇談会のこと等お伝えしました。30数年前の当時は、講堂はまだなく（86年3月竣工）、ゼミの後で教員や学生、一緒になってソフトボールをしたこと、当時の教員の面々（物理教室は11人）の思い出話など話題は尽きず、あっという間の2時間の会を終えました。（学長 松田正久）

中島晴美教授の作品展(9/10-10/2)

本学の中島晴美教授（現代学芸課程造形文化コース、陶芸家）の作品展が9月10日（土）から10月2日まで、ギャラリー・ヴォイス（多治見市）で開催されています。その初日10日午後1時半から3時まで、同ギャラリーでシンポジウム「陶芸の造形について」が行われました。これは、国際陶磁器フェスティバル協賛イベントです。

金子賢治氏（茨城県陶芸美術館館長）、中島晴美氏のお二人のトークを、同ギャラリー管理運営責任者、川上智子氏がコーディネートするかたちで進行了しました。

筆者なりの理解でポイントをまとめますと、以下ようになります。

金子氏は、作家がどのような意識を持って素材と向き合い制作に取り組むか、その過程は「素材の可能と不可能の中で自分の形を見つけていく」営みであり、陶芸の唯一の独自性といってよく、これを氏は「陶芸的造形」と呼びます。氏によれば、ある造形は素材が土による場合もあるし、土でなくてもよいのです。



これに対して、作家の立場から中島氏は、「自分にとって土でなければならないから、土を選ぶ」「土を使って焼き物になる時間」が意味あるものであり、これは「陶芸の造形」なのだ。この有機的なものは「成長・増殖」する。ただそうするのではなく、「増殖し、反転して、変容（の予感）が生まれる」のだと、氏は言います。氏によれば、「土を使ってただおもしろい造形物を表しても、それは『土の表情』であって『作品』ではない。両者の決定的な違いは、自分というものが織り込まれているかどうかだ」。

表向きは、「陶芸【的】造形」か、それとも「陶芸【の】造形」か、という概念規定の違いのように聞こえますが、片や評論家として「造形」の本質は何かを問い、片や作家として作品のアイデンティティを問う、というとても質の高いトークでして、ジョーク混じりの笑いの中にも互いの火花の散る論争の要素もあって、大変刺激的でした。

教育学研究者としての感想をひとこと申せば、「ぼくもその（造り出す）形式の中に現れる」という中島氏の言葉を重く受けとめれば、「陶芸の造形」は、作家にとって土を使ってのアザーリング（othering：他者化）なのではないか、と思いました。（総務担当理事 折出健二）

＊

＊

中島教授が講演する「第3回愛教大アカデミックカフェ」を10月20日（木）午後5時15分から開催。詳細は「催しもの案内」を参照ください。

中野弘幸さんユニバーシアード2位&日本学生選手権優勝！男子初の快挙！（報告）

陸上部の中野弘幸さん（保健体育専攻・院1年）が8月12日（金）～19日（金）に中国・深市を中心に開催された「第26回ユニバーシアード競技大会」で、400mリレー種目で見事、銀メダルを獲得した。

中野さんは男子400mと同400mリレーの2種に出場。400m個人は46・61秒の記録で残念ながら準決勝敗退したものの、400mリレーでは3分05・16秒で2位に輝いた。

「個人が上手くいかなかったので、その分メダルを持ち帰りたいという思いが強かった。メダルがとれて、来た甲斐があったと、安心しました」とその時の気持ちを語る中野さん。

さらに、9月9（金）～12日（月）に熊本県のKKWingで行われた「日本学生対抗選手権（日本インカレ）」では、400m個人で優勝。全国制覇を果たしたのは、本学としては13年ぶりで、しかも男子では初めてという快挙となった。

そんな中野さんだが、「メダルを取ったとしても、これで終わりじゃないんです。次の目標はオリンピック。個人的には、まだまだ経験不足。いい感覚で



走れる時と走れない時があるので、ムラをなくしていきたい。まだまだです」と気を引き締める。

今シーズンの残る試合、10月の国体（山口県で開催）と日本選手権リレー（横浜市）にも、期待がかかる。さらにオフシーズンは、いよいよ五輪をかけた体作りの大切な時期になる。来年6月の日本選手権で、ロンドン五輪出場の行方が決まることになる。

陸上部の日本学生対抗選手権成績（報告）

中野弘幸さんの優勝に続いて、今年の日本学生対抗選手権では本学陸上部の面々も健闘。その他、7種目で全国入賞。過去最高は3種目とあって、陸上部顧問の筒井清次郎教授は、「7位、8位が5種目と勝負強さが目についた大会でした」と評価する。

その他の入賞者の成績は次のとおり。

- | | |
|-------------|----------------------|
| ・女子400m | 木引悠起子（初等・保健体育選修1年）6位 |
| ・女子棒高跳び | 渡邊みなみ（院・保健体育専攻2年）8位 |
| ・女子ハンマー投げ | 武蔵千里（初等・保健体育選修3年）7位 |
| ・女子円盤投げ | 片嶋佑果（中等・保健体育専攻4年）7位 |
| ・女子3000SC | 花岡沙耶（初等・保健体育選修3年）8位 |
| ・男子4×400リレー | 上田祐貴（院・保健体育専攻1年）、 |
| | 中野弘幸（院・保健体育専攻1年）、 |
| | 平野達也（初等・保健体育選修3年）、 |
| | 日比野陽平（中等・保健体育専攻4年）8位 |

小学校に植物工場、未来の農業技術を体験(報告)



6月中旬より、日進市立北小学校、扶桑町立高雄小学校に本学で試作した植物工場を設置し、野菜の育成体験を行い、実際に自分たちで育てた野菜を食べてもらいました。

今回の取り組みは、科学・ものづくり教育推進センターの活動の一環で、学校教育現場への理科教育教材の支援を目的としています。理科の単元『植物の生育』の観察・体験のみならず、社会の『新しい日本の農業』や、食の教育にも利用できる教材になります。

植物工場は近未来の農業の形として期待されています。

室内でLED等の人工光を用いて野菜・果物を栽培しているので、害虫や病気の心配もなく、ほとんど無農薬で栽培する事ができます。また、照明の色を変える事により、野菜の栄養成分や味もコントロールすることもできます。従って、植物工場野菜・果物を栽培することにより、安心して美味しい野菜・果物を食べる事ができます。

今回小学校に設置した植物工場では、白色光源の他に、光の三原色である赤、緑、青の光や、赤+青の混合などの照明でそれぞれ野菜を育てて貰い、植物の生育に必要な光、光合成に必要な光などについて学習してもらいました。今回栽培したのは『レッドマスタード』という練りがらしの材料になっているもので、葉の色や味の違いが出やすいのが特徴です。それぞれの小学校で1~1.5カ月栽培してもらい、生育の観察をしながら、最後には育てた野菜を食べてもらいました。栽培する時に使う光の色によって生育の様子も異なり、味、特に辛さが違うのには、子どもたちはもちろん先生まで驚いていました。



意見交換会では活発な意見、質問もあり、とても勉強になりました。また、アンケートでは殆どの子どもたちが、『楽しかった』、『また取り組みたい』と回答していたのに加えて、次回はイチゴやメロンを栽培したいとの意見もありました。アンケートとは別にいただいた感想文に『将来植物工場を研究したい』という子どももいて、取り組んで良かったと思いました。

今回、植物工場を受け入れていただいた日進市立北小学校、扶桑町立高雄小学校の諸先生方、子どもたちには感謝しております。楽しく学習できて、とても良かったのではないかと思います。また、機会を作って取り組んでみたいと思います。

(科学・ものづくり教育推進センター研究員 土谷徹)

指導案作成のためのWord講習会(報告)

情報処理センター2階のFマルチメディア演習室で8月22日(月)午後1時30分から、同センター主催の「指導案作成のためのWord講習会」を開催しました。



教育実習を控えた3年生や、1年生、大学院生など幅広い層から9名の参加者が集まりました。講師はこの秋に実習を控えた私が担当しました。

講習会では、実際に教育実習で作成する指導案をサンプルに、Wordでよく使用する機能の使い方を説明。書式の編集・段落番号のつけ方・インデントの増やし方・その他の便利機能などに触れました。

参加者からは、「自分では分からないことが多かったのですが、教えてもらえて良かったです」、「資料がわかりやすく、後から見直したときに役

に立つと思います」といった声が寄せられ、好評でした。質疑応答では、「脚注のこういった使い方はできないか」との質問から講習会がとても盛り上がりました。

また、指導案だけでなく、学級新聞の作成などにも応用の効くテクニックを紹介しました。実際に作成していく上で、今回のテクニックを活かしながら各自に特化した Word スキルを磨いてもらえればと思います。
(初等・国語選修 3 年 河口悠太郎)

教員×教職志望者交流会(報告)

8 月 27 日(土)に名古屋市の青少年交流プラザにて、教員教職サークル with us 東海主催の『(教員×教職志望者)第 3 回交流会』が行われました。

このサークルは、教職志望者が主体となって教育者の繋がりを創りを目的としたインカレサークルです。交流会活動は、教師を目指す学生と現職の先生とが出逢い、教育について語り合う場づくりをしています。

今年 1 月から行い、今回が 4 回目です。岐阜から ICT の実践をされている先生方や、『学び合い』という教育理論を取り



り入れている先生、そして本学をはじめ、岐阜聖徳大学や愛知淑徳大学などに通う教職志望者など計 20 人とともに教育について語り、学び合う交流会を開催いたしました。

これからも定期的に行っていきます。次回は 11 月 19 日(土)を予定していますので、「学校の先生と話してみたい!」「他大学のひとと話してみたい!」「教育について何か行動を踏み出したい!」という方が見えたら、どうぞお越しください。(HP 報告欄: <http://bit.ly/rgp9WK>)

(初等・理科選修 4 年 日江井 雄大)



事務職員採用内定者懇談会(報告)



2011 年度の事務職員採用内定者懇談会を 8 月 31 日(水)午後 1 時から第三会議室で実施しました。当日は内定者全員参加し、大学側からは松田正久学長をはじめとする役員と部長 3 名が出席しました。

懇談会は、松田学長の挨拶と講話、折出健二理事(総務担当)の本学の現況説明と進み、各内定者の近況報告を兼ねた自己紹介へと続けました。その後に自然科学棟の屋上にある天文台などの学内施設に内定者を案内しました。

後半は、第一福利施設ハンズで本学の若手職員との茶話会を行いました。終始和やかに会話が弾み、終了時間になっても会話が途切れることがなく、結局、予定時間を延長して懇談会を終えることとなりました。

内定者にとっては、今後自分たちが働く場の雰囲気を知ることができた有意義な一日となったのではないのでしょうか。
(人事課課長補佐 丸山祥弘)



催しもの案内

◆第 3 回愛教大アカデミックカフェ

10 月 20 日(木) 17:15~18:30 入場無料、一般参加も可能

本部棟 3 階 第五会議室

講師：中島晴美教授（現代学芸課造形文化コース）

演題：「やきものの造形」 造形としての「やきもの」について講演。

問い合わせ：法人運営課広報室 Tel 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 7 3 8

E-mail:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

編集後記

9 月半ばというのに連日 30 度を超える真夏日ですが、キャンパスには静かに秋が訪れています。実習園では稲穂が頭を垂れて、サツマイモもすくすくと成長、雑木林の栗の木には栗の実が落ち始めています。広い集めた栗は、なかなか立派なサイズ。しばらく法人運営課の部屋の一角で観賞用にしていたましたが、この週末には料理していただきます。愛教大特産“くりきんとん”作りに挑戦です！（K）

投稿のお願い

学内外の出来事（教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など）に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール：kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者：総務担当理事 折出 健二